



Japan Film Commission
ジャパン・フィルムコミッション

資料 2

日本国内におけるロケ撮影の現状と課題

特定非営利活動法人
ジャパン・フィルムコミッション

1. 日本のフィルムコミッション活動の現状

全国のフィルムコミッションは、2000年に国内で設立されはじめてから、毎年増え続け、平成28年9月現在で、307団体までになった。国内のロケ撮影は、全国にフィルムコミッションが出来はじめた2000年の282本と比べると、2015年では約倍の581本となっており、年々増加傾向にある。

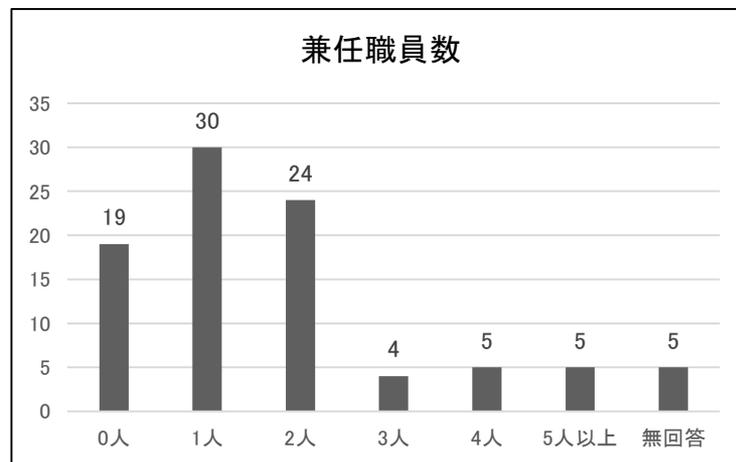
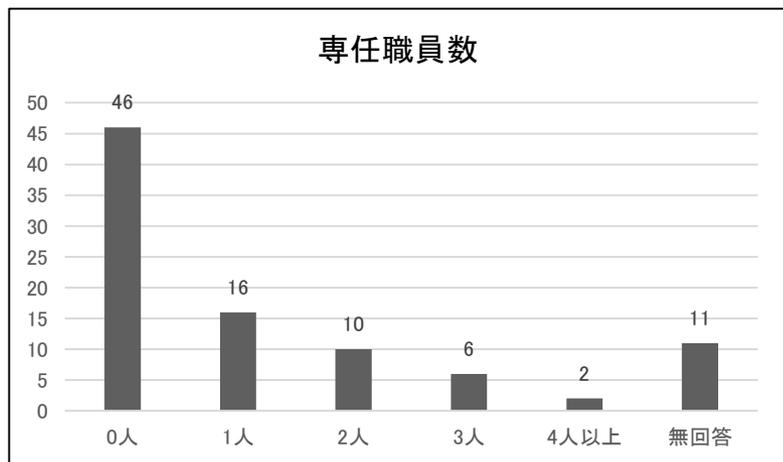
FCはあらゆる映像制作において関わっていることが多く、邦画を例にとると、2015年の邦画の国内公開興行収入ベスト32作品のうち、実写が22作品で、うち21作品をFCが支援している。

順位	興収(億円)	タイトル	協力FC
1	78	映画 妖怪ウォッチ 誕生の秘密だニャン!	
2	58.5	バケモノの子	
3	46.7	HERO	多摩市、たまLS、三鷹市、台東区・FC、大阪FC、柏市役所、千葉FC、近鉄LS、神戸FO、ひょうごロケ支援Net、東京LB
4	44.8	名探偵コナン 業火の向日葵	
5	39.3	映画ドラえもん のび太の宇宙英雄記(スペースヒーローズ)	
6	37.4	ドラゴンボールZ 復活の『F』	
7	32.5	進撃の巨人 ATTACK ON TITAN	NPO法人 たかはぎLS、いばらぎFC、長崎県FC
8	28.4	映画 ビリギャル	なごやLN、長岡ロケナビ、千葉県FC
9	28.4	ラブライブ! The School Idol Movie	
10	27.7	映画 暗殺教室	栃木FC、前橋FC、埼玉
11	26.1	ポケモン・ザ・ムービーXY 光輪(リング)の超魔神フーパ	
12	24.5	ガールズ&パンツァー 劇場版	
13	24.3	ヒロイン失格	長崎県FC、横浜FC、諏訪圏FC
14	23.6	アンフェア the end	小山町FC、足利市、千葉県FC、あきる野FC
15	23.2	ストロボ・エッジ	新潟県FC協議会、長岡ロケナビ

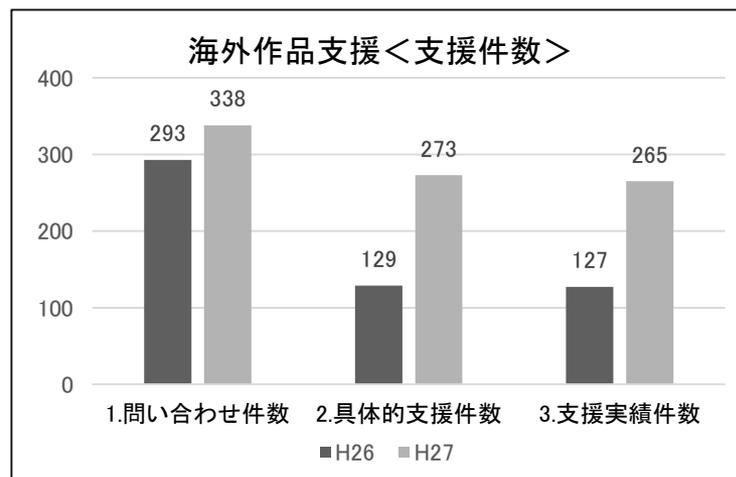
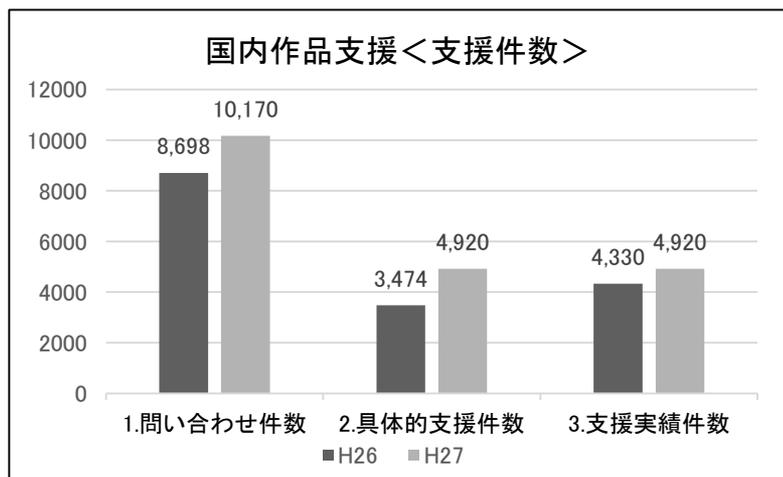
順位	興収(億円)	タイトル	協力FC
16	22.9	映画クレヨンしんちゃん オラの引越し物語～サボテン大襲撃～	
17	20.2	寄生獣	よっかいち、大阪FC、神戸FO、横浜FC、 いばらきFC、静岡県FC
18	20	THE LAST - NARUTO THE MOVIE -	
19	19	アオハライド	富山県LO、高岡FC、長崎FC
20	18	図書館戦争 THE LAST MISSION	やまなしFC、北九州FC、せんだい宮城FC、 新潟県FC協議会、埼玉県、東京LB
21	17.6	バクマン。	いばらきFC、静岡県、埼玉県、八王子市
22	16.8	海街diary	鎌倉、湘南藤沢FC、花巻市、栃木県、 わたらせFC、富士市
23	16.8	進撃の巨人 ATTACK ON TITAN エンド オブ ザ ワールド	長崎県FC、くまもとFC
24	16	龍三と七人の子分たち	なごやLN、いばらきFC、日野ロケ支援隊、 大田区、やまなしFC
25	15	寄生獣 完結編	いばらきFC、東京LB、姫路FC、京都、横浜FC、 大阪FC、よっかいちFC、堺市
26	14.2	バンクーバーの朝日	栃木県FC、千葉県FC、松本FC
27	13.3	新宿スワン	浜松FC
28	13.2	イニシエーション・ラブ	静岡FC
29	13.2	日本のいちばん長い日	神戸FO、滋賀県FC、京都市、奈良県、淡路FC
30	13.2	ギャラクシー街道	
31	13.1	予告犯	あしかがFC、佐野FC
32	13.1	劇場版 MOZU	北九州FC、なごやLN、とよたFC、常総市FC、 ふちゅうLS、よっかいちFC、栃木県FC、宇都宮FC、 会津若松FC、横浜FC、高萩FC、いばらきFC、 NPOたかはぎLS、FC富士

年々、FCの支援作品件数は増えているが、各FCの担当の平均は0.8人と1人にも満たない。多くは、観光業務などとの兼任で行っている。そのため常に人手不足で、ロケ支援以外の活動がままならないことも多い。

各FCの担当者数（JFC会員のうち90団体回答）



国内・海外作品の支援件数（JFC会員のうち90団体回答）



<フィルムコミッションとは>

フィルムコミッション(FC)とは、映画・テレビドラマ・CMといった映像作品のロケーション撮影が円滑に行われるための支援を行う団体で、以下の三要件を満たす公的機関を指す。撮影支援を行うことによって、地域活性に繋げる目的で活動している

<FC三要件> ⇒ 国際組織AFCIのbylaws(規約)を集約したもの

1. 非営利公的機関である

- ・FCは、(地域を守るため)制作者との対等な立場を担保
- ・FCは、撮影支援に際して、地域の合意形成を促す

2. 撮影支援の相談に対してワンストップのサービスを行っている

- ・適用ルールの統一性、問題の把握、撮影者の信頼性・効率性を担保

3. 作品内容を選ばない

- ・FCは、表現の自由を尊重し、作品の内容により支援の可否を決めてはならない
- ・FCは、ロケ候補地の管理者と制作者の仲介、連絡調整を行う

<世界のフィルムコミッション・ネットワーク>

○国際フィルムコミッショナーズ協会:AFCI

⇒所属団体数300団体 うち日本から6団体 (JFC未加盟)

○アジア・フィルムコミッション・ネットワーク:AFCNet

⇒18か国・地域から59団体加盟、うち日本から17団体

* 設立時より、会長は韓国、副会長は日本と他国から1名ずつ。年会費500ドル
事務局人件費・経費、イベント開催費等は、釜山FCが負担。(～2015年)

* AFCNetは、ASEANと協力し、ASEAN地域の映像産業の発展のため、人材育成プログラム等を行っている

○ヨーロッパ・フィルムコミッション・ネットワーク:EUFCN ⇒28か国 84団体加盟

2. フィルムコミッションの活動

<フィルムコミッションの活動内容>

1. 制作者への誘致・プロモーション活動
2. 制作者へのロケーション撮影支援
 - シナハン、ロケハン、ロケ支援: **情報提供、同行、許認可の調整**
 - 地域の合意形成を図るための支援: **説明会の実施、広報など**
 - 支援作品の宣伝: **地域の媒体を活用した広報活動など**
3. 支援した作品を活用した地域活性化活動
 - 地域住民や映像業界とのコラボレーション: **映画祭、上映会**
 - 観光政策としての誘客施策: **フィルム(スクリーン)ツーリズム**
 - 文化資産の保全・活用: **施設改修・保全活動**
 - 特産品等の物販促進: **プロダクト・プレイスメント**
 - 地域教育機関との連携: **映像制作ワークショップ**
4. 地域への啓蒙・PR活動
5. 情報の蓄積、スタッフの育成
6. 近隣FCとの連携

＜フィルムコミッションが提供するサービス(支援内容)＞

1. すべてのFCが必ず提供するサービス(支援)

- ① ロケ地に関する情報(写真、撮影条件、使用料、連絡先、地図など)の提供
- ② 宿泊、食事、機材、レンタカーといったロケ関連の情報の提供
- ③ 撮影許認可に関する情報の提供

2. FCによって提供する場合があるサービス(支援)

- ① 警察署、公的機関などへの撮影許可手続きの簡便化や代行
- ② ボランティア・エキストラの手配
- ③ シナハン、ロケハン、撮影への同行
- ④ 宣伝への協力
- ⑤ ロケハン助成金や製作補助金などのインセンティブ(助成)

3. FCが直接提供しないサービス(支援) ※相談の受付は除く

- ① タイアップ交渉
- ② 製作資金の提供
- ③ 撮影に関連して起きた人的・物的損害の補償

<JFCの撮影環境整備および人材育成に関する取り組み>

・FC説明会の実施(年1回開催)

映像制作者を対象に、地域の撮影支援の取り組みおよびFCの活動の説明や、各地域の特徴等に関する説明会を開催。また、警視庁にもご協力頂き、撮影に関する道路使用に関する説明や、通達の説明、相談会も同時に開催。

・委員会の設置

支援事例などを共有し、関係者のヒアリングなどの調査を行い、FCや地域側の注意喚起を行ったり、研修などの資料として活用

・JFC認定研修会の実施(年1回開催)

新人のFC担当者を対象に、基本的なFC業務や映像制作の知識、撮影に関する道路交通法、関係する法律の知識など、一定以上のレベルでの平準化を保つために、研修会を実施。毎年100名程度が受講。同時に、スタジオの見学なども行い、映像制作についても学んでいる。

講師:警察庁、弁護士、映像制作者者、FC経験者、など

・JFCスキルアップ研修会の実施(年1回開催)

経験を積んだFC担当者を対象に、最新事例を学んだり、地域で抱える問題や課題を共有し、活動に活かす研修。

3. 国内における現状と課題

①撮影環境整備

- ・許認可手続きの複雑さ
 - 複数の手続きを踏む必要がある
 - 海外のようなfilm permit/ city permit の制度がない
- ・国としての窓口の一元化ができていない
 - 撮影に関わる関係省庁の横の連携が取りづらい
 - 大規模撮影への官民の協力体制
- ・合意形成を取り付けるのに時間がかかる
- ・撮影に対する理解がないと取られている
 - 撮影が出来ないロケ地が多い

* 海外でも、最初の手続きや契約には時間を要する。地域との合意形成に関しても、時間や予算をかけて調整する。但し、国や地域のFCでは、最初の手続きが通れば、トップダウンで許可が下りるところも多い。

* 許可が下りていたロケ地でも、文化の違い等によって誤解や問題が生じ、その後許可が下りなくなってしまう場合もある。

撮影に関する主な許認可

- ・道路使用許可申請書(警察)
- ・道路占有許可申請書(国交省又は道路管理自治体)
- ・制限外けん引の許可申請書(公安委員会)
- ・制限外積載/設備外積載/荷台乗車 許可申請書(警察)
- ・観覧場又は展示場における催物の開催届出書(消防)
- ・無人航空機の飛行に関する許可・承認申請書(国交省)
- ・港湾行事許可申請書(海上保安庁および自治体港湾局)
- ・国有林野入林許可申請書(林野庁)

その他

- ・各口ケ所有者への撮影許可申請書(施設管理者)

②人材育成 **語学、海外作品経験不足**

- ・海外作品の問い合わせがあっても、**語学の問題**で対応が遅れたり、対応が出来ないことが多い(FC・自治体、制作者の両方)
- ・海外からFCに、国内制作者の紹介を依頼されることが多いが、**海外作品に対応できる制作会社が少ない**。また対応できる会社には仕事が集中するため、スケジュールが取れない
- ・海外の会社と契約書を結んでパートナーになれる会社が少ない。
- ・海外の大作に対応できる業者の不足、立て替えが発生するため、**資金面でも体力のある会社が少ない**。また、それらの**経理処理ができる人材も少ない**
- ・地域の事情や条件が違うため、FCによって協力体制に差がある
(レベルの平準化を目的とする研修へも参加できないFCも多い)
- ・学生に対しての**人材育成が不十分**(大学等との連携には地域差がある)

③法的な課題

- ・**免税(消費税の還付)等の手続きの複雑さ**
- ・**ビザに関する問題**(現状は映像制作者に該当するビザがないので興行ビザで対応しているが、滞在先の事前申請や、長期滞在の不可、国内での興行(収入)がないのに、所得税などの課税対象になるなど不都合が多数ある)

④インセンティブ

- ・海外から魅力的と思われるインセンティブがない
（大規模作品には低額、小規模作品にはハードルが高い）
- ・単年度の助成金のみである *昨年度の映画TFにて今後の検討が決定
（申請の複雑さ、単年度事業のハードル、応用が利かない）
- ・海外の制作者は「国としてのサポートや歓迎感がない」と感じている
⇒撮影の決定に繋がらない

⑤プロモーション不足

- ・現在の日本の撮影環境やサービスのプロモーションが不十分である
- ・海外作品の誘致に関わる省庁や事業が複雑過ぎて、海外制作者の混乱を招いている。結果、窓口や誘致内容が伝わっていない
- ・日本では撮影しづらいとされている

⑥コンテンツの活用が難しい

- ・海外だけの上映や放送の場合、撮影後に公開などの情報収集が難しい
 - ・著作権問題、事務所との契約の問題、配給との問題などから、撮影に協力をして地域活性にコンテンツの活用が難しいことある
 - ・効果測定が困難なことから、費用対効果を出すのが難しい
- * 作品の活用が難しかったり、費用対効果を示すことが難しいことから、自治体の予算が削減されFC活動が制限されているところも増えている

4. 解決策のために必要な今後の展開

* 今後の可能性、展開

地方創生事業の一環としてのロケ誘致・支援は、産官学民の連携、雇用の創出、観光集客、文化振興に繋がる。

映像業界、省庁、地方自治体等が一体となった取り組みが必要である。

問題点に関しては、同時進行の解決が必要

- ①撮影環境の調査、課題の整理、整備
- ②産官民学が連携した人材育成プログラムの整備、ガイドライン等の作成
(地方での研修、大学等との連携等)
- ③日本にあったインセンティブの整備・策定
(文化的作品支援と商業的作品支援の整備)
- ④関係省庁の連携と、役割の整備(関係省庁における窓口の一元化)
- ⑤海外作品の問い合わせ窓口・担当の整備(支援フローの整備)
- ⑥海外へのプロモーション活動の強化
- ⑦コンテンツの活用に関する規制の緩和